

みのる法律事務所便り
第 3 0 9 号
平成 2 8 年 1 月

みのる法律事務所
弁護士 千田 實

〒 021-0853

岩手県一関市字相去 57 番地 5

TEL : 0191-23-8960

FAX : 0191-23-8950



みのる法律事務所 <http://www.minoru-law.com/> [✉ minoru@minoru-law.com](mailto:minoru@minoru-law.com)



年頭のご挨拶

平成 2 8 (2 0 1 6) 年 1 月 号 だす。もう 1 月 も 終 わ り ま す の で、年頭
の 挨 拶 と い う の も ピ ン と き ま せ ン が、ご 挨 拶 を さ せ て い た だ き ま す。

昨 年 (平 成 2 7 年) は、4 月 号 で「3 0 0 号」記 念 と な り、今 回 は「3
0 9 号」と な り ま し た。1 か 月 に 1 回 の 発 行 で す か ら、3 0 9 か 月 で 2 5
年 と 9 か 月 と い う こ と に な り ま す。こ の 事 務 所 便 り を お 読 み 下 さ っ て い る
皆 様 に は、も う 四 半 世 紀 以 上、変 わ ら ぬ ご 支 援 を い た だ い て き た こ と に な
り ま す。ま た 今 年 も ご 支 援 を お 願 い 申 し 上 げ ま す。

昨 年 は、キ ャ リ ー バ ッ グ 事 故 で 車 椅 子 を 押 し て も ら う な ど、他 人 の 力 を
借 り て 生 き て い る こ と を か っ て な い ほ ど 実 感 で き た 1 年 で し た。そ の 体 験
を 通 じ て 学 ん だ こ と は 少 な く あ り ま せ ン で し た。特 に 印 象 的 だ っ た こ と は、
他 人 の 力 を 借 り る こ と に よ っ て「あ り が た い」と い う 感 謝 の 心 が 湧 き、「恩
返 し を し た い」と い う 心 が 湧 い て く る か ら で し ゃ う か、「や る 気」が 湧 い
て き ま す。力 を 貸 し て く れ た 人 に 対 し て は 勿 論 の こ と で す が、そ の み な
ら ず、「誰 か の 役 に 立 っ て、世 の 中 に 対 し 恩 を 返 し た い」と い う 広 い 心 ま
で 湧 い て き ま し た。

こ の 世 は「持 ち つ 持 た れ つ」で す が、今 年 も こ の 事 務 所 便 り を お 読 み 下
さ っ て い る 皆 様 の お 力 は、私 に と っ て 不 可 欠 で す。ど う か お 力 を お 貸 し 下
さ る よ う お 願 い 申 し 上 げ ま す。お 貸 し い た だ い た 力 に よ っ て 成 長 し、世 の
た め、人 の た め、少 し で も 役 立 つ よ う 頑 張 り た い と 考 え て い ま す。

互 い に「あ り が た い」と 思 い、互 い に「恩 を 返 し た い」と い う 関 係 が 望
ま し い 人 間 関 係 で あ る と 確 信 し て い ま す の で、何 卒 ご 指 導、ご 厚 誼 下 さ る
よ う お 願 い し、年 頭 の ご 挨 拶 と さ せ て い た だ き ま す。

黄 色 い 本、青 い 本、さ く ら 色 の 本、ピ ン ク の 本 等、「い な べ ん の 本」は 株 式 会 社 エ ム ジ ェ エ ム の 他、
下 記 書 店 で も 好 評 発 売 中 で す。

宮 脇 書 店 気 仙 沼 本 郷 店 〒 988-0042 気 仙 沼 市 本 郷 7-8 TEL: 0226-21-4800
[amazon.co.jp](http://www.amazon.co.jp/) <http://www.amazon.co.jp/> - 1 -





他力を楽しむ



「年頭のご挨拶」でも述べさせていただきましたが、去年はキャリアバッグ事故で右大腿骨股関節骨折をして歩行困難となりましたので、車椅子を押してもらうなど、多くの他人の力を借りました。

振り返ってみると、「迷惑をかけた。もう二度と他人の力を借りないようにしたい」という思いは全くありません。それ以上に、「他人の力を借りることは素晴らしいことだ。これからはどんどん他人の力を借りて、残された人生を楽しもう」という気になっています。

そんな思いで、今、『長生きを楽しむコツ その十一』の第18話として「他力を楽しむ」を書いています。今回は、その最初の項「他力のくさり」と、最後の項「ああはなりたくない偉い人」を転載します。

仏教の世界では、「自力本願」と「他力本願」という考え方があります。仏教では、死んで極楽浄土へ行く方法を教えているのだと思いますが、「仏の力」によって極楽浄土に行くことは死んでからのことですが、生きているうちにも「他人の力」を借りてこの世で極楽浄土を楽しむことができると確信しています。



○ 他力のくさり

今日は、平成28（2016）年1月1日です。平成27（2015）年の1月1日は、大久保病院（東京都新宿区歌舞伎町）のベッドの上で『長生きを楽しむコツ』の各論の1つとして、第17話「待つを楽しむ」を書いていました。

1年後の今日は、自宅台所の食卓で第18話となる「他力を楽しむ」を書いています。



この1年間を振り返りますと、「100%満足のいく1年だった」と断言できます。平成27（2015）年は12月29日が仕事納めでしたが、スタッフの前で「お陰様で100%満足のいく1年でした。皆様のお陰です。お礼を申し上げます」という言葉が、何の抵抗もなく口から出ました。本当に「100%満足のいく1年」でした。

車椅子や歩行器での1年でしたが、何の不自由も感じることなく、やりたいことは全てやれた1年でした。「やれた」というより、「やらせてもらった」という1年でした。

このような結果を得られたのは、文字通り「他力本願」でした。自分の努力によって目的を果たしたのではなく、他人の力によって目的を達したという思いです。

仏教では、「ひたすら^{あみだぶつ}阿弥陀仏の力に^{すが}縋って救われて^{ごくらく}極楽へ行くこと」を「他力本願」と言うそうです。私が「100%満足のいく1年」を過ご





せたのは、私を取り巻く人達の力によるものでした。その皆様こそ、私にとっては阿弥陀仏だったのです。

それを確信し、『年寄りのための童話』の1話として「他力を楽しむ」を書いています。

感謝の心が湧いてきて、書かずにはいられない心境なのです。この気持ちを言い尽くせるか、読んで下さる皆様に伝えられるかは不安ですが、素直に思うがままに書いてみます。美辞麗句^{びじれいく}は並べようにも並べられませんので、「辞は達するのみ」という孔子^{こうし}の教えを信じ、述べてみます。

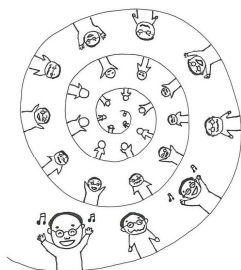
平成27（2015）年を振り返り、「100%満足のいく1年だった」のは、自分1人の力ではなかったことは言うまでもありません。

仏教では、「自分で修行し、さとりを開くこと」を「自力本願」と言うそうですが、1年を振り返り、「自力本願」では全くなく、「他力本願」の1年だったと断言できます。そして、その思いが「100%満足のいく1年だった」、「最高の1年だった」、「ありがたい1年だった」と言わせるのです。

この1年間は、キャリーバッグ事故による右大腿骨股関節骨折で、自力で歩くことはほとんどできませんでした。わが身を移動するのは、他人の力によりました。

それらを皮切りに、多くのことを周囲の人の力によってやり遂げられた1年でした。かつてないほど「他力本願」を実感した1年でした。

「他力本願」の1年だった平成27（2015）年を振り返り、心の底から「100%満足のいく1年だった。最高の1年だった」という思いに





至りました。「目的を達成した」という達成感だけではなく、「ありがたかった」という感謝の気持ちが湧いてきて、尽きないのです。

達成感プラス感謝の気持ちで、心の底から満足できる嬉しい1年でした。73年間生きてきて、初めて味わう至福の1年でした。

「自分で修行し、さとりを開く」という「自力本願」も大事なこともかもしれませんが、自分に対して「よくやった」という達成感よりも、「他人の力によって目的を達成した」という思いには、達成感に感謝の心がプラスされ、一段と素晴らしい満足感が得られました。

平成27（2015）年は、「100%満足のいく1年」となりました。「他力本願」が成就じょうじゅした1年でした。死んで極楽浄土へ行くことが本来の「他力本願」かもしれませんが、生きているうちに、「他力」によって極楽浄土を味わうことも「他力本願」だと確信しました。

平成28（2016）年は、「他力」によって100%満足できた平成27（2015）年のご恩を少しでもお返しできればという思いで一杯です。「他力」の素晴らしさは、「ありがたい」という心と、「恩返ししたい」という心が連鎖して、「くさり」のように連なり、どこまでも広がることにもありそうです。「他力のくさり」を長く広く繋つないでいきたいものです。

○ ああはなりたくない偉えらい人

「偉いと思える人にも二通りある。『ああなりたい』と思う人と、『ああはなりたくない』と思う人がいる」と、その人は言いました。事業にも大成功し、一代で財をなした方でした。金儲けの名人でもありましたが、物事の本質を見抜く、優れた眼力の持ち主で尊敬していました。





その人が、私の小、中、高時代の先輩を評して、「あの方は偉い。奥さんを亡くし、再婚もしないで1人で何でもやる。食材も朝市で買い入れ、食事も自分で作る。どこへ行くにも自転車を漕ぎ、タクシーなど使わない。何から何まで1人でやる。偉い方だと思う」と心から感心していました。

ですが、最後に「偉い人だとは思いますが、私はああはなりたくない」と言い放ったのでした。

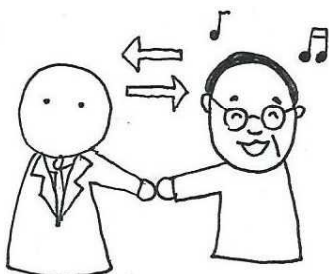
言った方も言われた方も、仕事上でも、仕事を離れても、私は深くお付き合いをいただいている方であり、公私にわたってその内情を知り尽くしていました。もう、お二人とも故人となりました。お二人とも、未だに忘れることのできない方です。

確かに、言われた先輩はそういう方でした。仕事もほとんど1人でこなしていました。奥さんを早くに亡くしてからは、家事も1人でやっていました。「先輩、再婚したら？」と水を向けても、「いくらか財産がある。再婚したら面倒なこともありそうだから、1人の方がいい」といった調子でした。

再婚もせず、仕事を手伝う人も置かず、タクシーも使わず、徒歩と自転車で動き回り、ほとんど他人の力を借りずに自力でやる方でした。

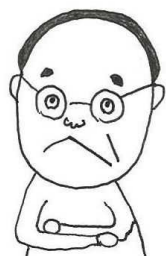
生活習慣病が気になる年齢でもあり、危ない体型でもあったので、「紹介するから食事療法をやりましょう」と誘っても、「自分の体を信じるだけだ」と言って、乗ってきません。

生活習慣病の行き着く先である大病となり、突然倒れ、しばらく植物人間状態となりましたが、ついで意識は戻らず、帰らぬ人となりました。



何でも自分でやらなければ気の済まない先輩でした。私も、「凄い。よくそこまでやれるものだ」と心から感心していました。妻からは、「少しは見習ったら」と、いつも他人頼みのわが身の引き合いに出されていました。

「自力本願」の化身、つまり「自分で修行し、悟りを開くという神仏」が、先輩に姿を変えてこの世に現れたのではないかというような方でした。その方を評して、「偉い人だとは思いますが、私はああはなりたくない」と、師とも仰ぐ金儲けの名人は言い放ったのでした。



「偉い人だが、ああはなりたくない」と言われた^{わけ}理由を、ぼんやりとですが探していましたが、この話を書いて気がつきました。「先輩は、『自力』を信じ、『他力』にあまり頼らなかったからだ」という思いに至りました。

もっと他人の力を借りればよかったです。他人の力を借りれば、自分が楽です。のみならず、他人に対し、感謝の心が湧きます。「恩を返したい」と思います。そうするから、他人からありがたがられます。また他人が力を貸してくれます。これがグルグル回ります。循環します。誰もが「あの人には偉い人だ。ああいう人になりたい」という存在になれるのです。

「他力本願」は、ひたすら阿弥陀仏の力に^{すが}縋って救われて、死んだら極楽浄土に行くという死後の世界に限られた話ではなく、この世の中を生きていく上でも極めてありがたい方法なのです。

この世を楽しむためには、「他力」を楽しまなければならないのです。それを実感した平成27（2015）年でした。

平成28（2016）年は、自分も誰かの「他力」となって役立ちたいという思いで一杯です。そうなりたいものです。





《 新刊のご案内 》 年寄りのための童話 『長生きを楽しむコツ その十 - 総論2『欲望』-』

新刊『長生きを楽しむコツ その十』が1月28日に発刊の運びとなりました。タイトルは『欲望』としました。

全10項の中から、「欲で楽しみ、欲で苦しむ」の項を紹介します。

○欲で楽しみ、欲で苦しむ

前記の通り、「欲望」とは「不足を感じて、これを満足させようと望む心」と角川必携国語辞典は解説しています。同辞典は、「欲」とは「ほしがる。したがる」と書いています。欲望と欲は、ほぼ同じ意味だと思います。

この欲望・欲は、生きている者なら必ずあります。人間は、他の生きもの以上に「多方面に、しかも深く、不足を感じるようにつくられている」ようです。

欲望・欲は、犬や猫にもあります。犬だって、猫だって、お腹が空けば不足を感じて、それを満足させようとします。食べたがります。餌を求めて行動します。ですが、人間ほど「金だ」、「名誉だ」と欲の種類は広くはないようです。

欲は、動物でも人間でも「行動の原動力」、つまり「欲は、生きものを活動させるもととなる力」です。生きものは、動物も人間も全て、ほしがったり、したがったりするから行動するのです。

人間の欲は、多種多様で複雑怪奇ですから、その苦しきもまた多種多様で複雑怪奇です。

反面、欲があるから楽しいこともあります。欲があるからこそ、生きていることは楽しいと思えることも少なくないのです。犬や猫と違って人間が泣いたり笑ったりするのは、欲が多種多様で、且つ深いからかもしれません。欲は、苦しきと楽しみの「諸刃の剣」となるのです。

平成23（2011）年12月12日に臨死体験をした気がします。あの世は、この世では経験したことのない穏やかな世界でした。

「あの世には欲望はなかった」というのが、私の臨死体験の第一の印象です。欲がないから、ほしがることもしたがることもなく、穏やかそのものでした。欲望は、生きているからあるのだと確信しました。死によって、欲望は消えるのです。

臨死体験を経て、生きている限り、人間は「欲によって楽しみ、欲によって苦しむ」のだという確信を得ました。

欲がなくなれば、苦労はなくなります。仏教では「少欲知足」を教え、「欲を断って悟りを開く」と語っていますが、その意味を臨死体験で実感しました。ですが、生きている限りは欲望を全て断つことはできないと思います。

臨死体験をし、生きている間は、欲によって楽しみ、欲によって苦しき続けるようになっている、ということを知りました。

だったら、欲をコントロールし、苦しきの原因となる欲はできるだけ捨て、楽しきのもととなる欲をできるだけ増やしたいものです。それが「人生は楽しみ合うのみ」という『いなべんフィロソフィー』に適うものだと確信します。

